

福生時間を大切にしたい

福生ライフ Vol.2 2015年3月

福生ライフ

子育て&教育を応援するまち
子育てするなら ふっさ

モデル/
森田 瑛音くん
森田 琉生くん
森田 珠妃ちゃん
場所/明神下公園

幼稚園
保育園

学童クラブ

児童館

英語学習

子育て&教育を応援するまち 子育てするなら ふっさ

休日保育

ふっさっ子の
の広場

子ども家庭
支援センター

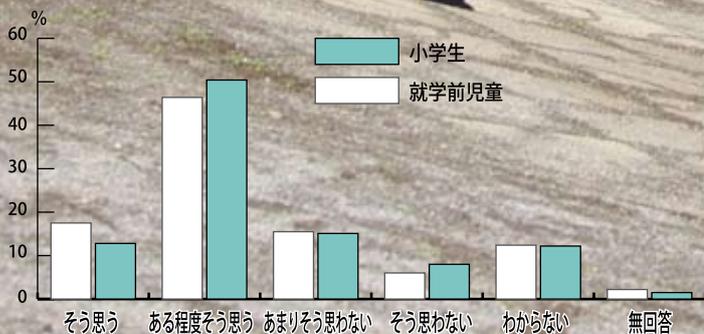
教育相談
少年相談

子ども相談
育児相談

病後児保育

病児保育

(福生は)子育てしやすいまちか？



福生市では子ども・子育て支援を
総合的に推進しています。

「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」より

買い物では市内の協賛店で割引や特典が受けられる「ふっさ子育てまるごとカード」を発行し、まちぐるみで子育てを応援する仕組みを推進しています。

市内の公民館や児童館では、保育室を備えた学習講座や子どもと一緒に参加できる教室やイベントが開催され、また、子どもと家庭に関する身近な相談窓口として「子ども家庭支援センター」なども設置。子育て中の家庭が安心して暮らせる支援を整えています。

何かと出費が多い子育て世代ですが、市では保育施設の費用軽減や助成にも積極的です。私立幼稚園の保育料・入園料の一部または全額を助成、認可外保育所を利用しての保護者には認可保育所の保育料との差額を補助しています。また、中学3年生までは医療費の自己負担分を助成し、子どもたちの健康への配慮をしています。

「子の広場」は全小学校で実施しています。

福生は幹線道路からのアクセスや鉄道の便もよく、移動や買い物に便利など、子育て世代の暮らしやすいまちでもあります。市では「子育てするならふっさ」を合言葉に、保育施設やサービスを充実し、子育て世代を応援しています。待機児童がきわめて少なく、一時預かりや休日保育、病後児保育などの支援策も多く実施しています。児童館、学校、図書館、学童クラブ等の子どものための関連施設も多く、充実しています。放課後を楽しく過ごせる「ふっさっ子の広場」は全小学校で実施しています。

子育てしやすい福生

妊娠・出産

安心して子どもを産める環境

保健センターで「母子健康手帳」や「母と子の保健バッグ」がもらえます。母と子の保健バッグには、妊娠・出産・子育てに関するリーフレットや、妊婦健康診査受診票等が入っています。妊婦健康診査受診票を使用することで、妊婦健康診査の費用が一部公費負担となります。また、妊娠・出産・子育てについての話が聞ける「パパママクラス」や、身近な場所で子育てに関するあらゆる相談ができる「ふっさ子育てなんでも相談」を行っています。



乳幼児(1)

赤ちゃんとお母さんを応援

市では公共施設に授乳やおむつ替えのできるスペース確保を進めています。現在は市役所、子ども家庭支援センター、市民会館など8か所が利用できます。また赤ちゃんが生まれた家庭を助産師、あるいは保健師が訪問する「赤ちゃん訪問」では、身体や育児の相談などができます。ユニークな取り組みなのが3、4か月児健康診査（健診）の際に、絵本を1冊贈呈する「赤ちゃんはじめの絵本事業」。図書館おはなしボランティアの方がその絵本の読み聞かせを行います。



切れ目のない子育て!

子どもの年代に対応した支援や制度

小・中学生

放課後や休日の遊び場づくり

児童の健全な遊び場として設けられた児童館や放課後の遊びや生活の場としての学童クラブ。さらには放課後に小学校内の施設や校庭で遊んだり学習などができるふっさっ子の広場が利用可能。地域の中で育児の援助をしてほしい方と、援助できる方が集まる会員組織のファミリー・サポート・センターもこの年代の家庭を支援しています。



乳幼児(2)

働きながら子どもが育てやすい

保育園、幼稚園、認定こども園のほか、通常の時間以外の保育である時間外保育、急病や仕事などで一時的に子どもを預かる一時預かり保育、親が病気の回復期に集団保育が困難な子どもを預ける病後児保育などを実施。また、地域で助け合い子育てをするファミリー・サポート・センターも利用できます。



子育て中のパパ・ママに、知ってほしい、利用してほしい、子育て支援いろいろ

パパママクラス



保健センターでは、初めてお父さん、お母さんになる方に助産師、保健師、栄養士、歯科医師などが妊娠、出産についてお話をします。普段、聞けないような貴重なお話や心構え、基本的な知識などが得られます。

問合せ／保健センター
☎ 042-552-0061

子育てサロン



妊娠中や子育て中の親と子が気軽に集えるサロン。さまざまな悩みに経験豊かな委員が相談ののってくれます。民生・児童委員協議会やボランティアによるサロンが市内7か所で定期的に開かれています。

問合せ／社会福祉課庶務・福祉計画担当 ☎ 042-551-1735

ファミリー・サポートセンター



育児の援助をしてほしい方と育児の援助ができる方が会員となり、保育施設や学校の送迎、その前後の預かり、保護者の短期間・臨時的就労や通院、病氣、看病、出産時などに預かりを行います。

問合せ／子ども家庭支援センター ☎ 042-539-2555

ふっさ子育てまるとくカード



中学生以下の子どもがいる世帯と妊婦のいる世帯を対象に、一世帯1枚発行され、市内の協賛店を利用する時にカードを提示することで、割引など特典が受けられます。子育て世帯の応援と地域活性化を目指しています。

問合せ／子ども育成課子ども育成係 ☎ 042-551-1733

福生の子育ての取り組みから、
3つをご紹介します。

子育て



教育・保育施設

16の保育施設と4園の幼稚園が
特色のある教育・保育を展開

福生市の認可保育園は16園あり、定員は1,359人、私立幼稚園は4園あり定員980人で、地域の方々の協力をいただきながら、それぞれ特色のある教育・保育を行っています。この中には保育園と幼稚園の機能をあわせ持つ認定こども園や小規模保育施設もあります。



待機児童0へ

待機児童は平成25年度0人、26年度5人。認可保育所の定員増や認可外保育所の利用者への補助金交付などにより、待機児童「0」を目指しています。

一時預かり・病児・病後児保育事業

仕事を持つパパ・ママを
サポートする事業



保護者が病気などにより自宅で保育できないとき、子どもを預かる一時預かり保育をすべての保育園で実施。また、休日保育、年末保育を一部の保育園で実施。さらに病気の回復期にある子どもが、普段通っている保育園で保育が困難なとき、子どもを預かる病後児保育を一部の保育園で実施しています。平成27年4月から病児保育も実施します。(8ページ参照)



地域の子育て支援

地域の人が助け合い、
まちを住みやすくする



子どもと家庭に関することなら何でも相談できる子ども家庭支援センターでは、子育てボランティア、見守りサポート、ファミリー・サポート・センターなどの事業を行い、総合的な支援を実施しています。また、小さな子どもを持つお母さんや妊婦さんが気楽に遊びに行け、友だちづくりや情報交換の場となっている子育てサロンが市内に7ヶ所で開催。スタッフは子どもが大好きな先輩パパ・ママのボランティアスタッフです。



「田園児童館・田園
会館・田園クラブ」
中川 洋一 館長

田園児童館は学童クラブと地域会館を併設しています。地域会館は地域の大人の方が利用されるので、子どもたちとお年寄りなどが交流する場にもなっています。子どもたちも太鼓の練習や社交ダンスの指導などをしてもらっています。福生市内ではイベントがたくさん開催されますので、そうした場に子どもたちが参加し、大人と交流する機会も設けています。

最近ではゲームばかりで、昔のような遊びをする機会が減少しています。当館ではできるだけ皆と体を動かす、楽しい遊びを提案するようにしています。子どもは本能的に遊ぶ力を持っているので、ゲームなどで鈍ってしまった能力を呼び覚ましてあげたいですね。遊び場の少ない家や社会に代わって、当館では友だちと一緒に思い切り遊んでほしいです。

○子育てサポーター
ゲームで鈍った能力を
呼び覚ましてあげたい

教育



福生の教育の取り組みから、
4つをご紹介します。

放課後や休日の居場所

放課後ひとりぼっちにさせない
保護者も安心の居場所づくり

小学生の放課後の居場所として、ふっさっ子の広場を市内の7校すべての小学校で実施。学校という安全な場で子どもが安心して過ごすことができます。利用時間は4～9月は午後6時まで、10～3月は午後5時まで。学校以外の居場所として、学童クラブ（12か所）と児童館（3館）がよく利用されます。学童クラブや児童館では年齢の異なる子どもたちが遊びを通して仲間づくりなどの活動を行っています。また学童クラブは、平成27年4月から6年生まで受け入れます。



ふっさっ子未来会議

ふっさっ子の未来のために、有識者や地域の方を委員として、
福生市の学校教育を総合的に検討する場

魅力ある学校づくりのために、ふっさっ子未来会議を設置。学力の向上、不登校の改善、英語教育や伝統文化理解教育などの推進に向け、さまざまな計画を策定しています。ふっさっ子未来会議の主な役割は2つあります。

- 1) 基礎学力の定着、不登校、健全育成その他諸課題の改善に関すること。
- 2) 家庭、地域及び学校における子どもの教育に係る関係機関との連携に関すること。

タブレット学習

自分のペースで着実に学力アップ

学力向上を目指し、平成26年度に算数・数学、英語について個人で学べるタブレット学習の調査研究を、小学校2校、中学校3校で行いました。この研究は、慶応義塾大学、FRENS(株)、福生市教育委員会の産学官の連携で進めました。今後のICT活用計画に活かします。



英語教育

目標を持って英語を話せるふっさっ子に！

グローバル化が進む中、多文化共生のまちである福生市では、英語教育の強化は大きな課題です。26年度はタブレットを活用した英語学習や都立福生高校の英語科A T L（外国語指導助手）が小学校で指導するなどの取り組みを実施しました。27年度は、例えば小学校1年生から外国語活動の導入や、また日本英語検定協会の英検導入等を検討し、福生市英語教育推進計画を策定します。



◎教育サポーター

子どもたちが自信と
誇りを持てる教育を

福生市内には小学校7校、中学校3校があり、約3,700人の児童・生徒が通っています。施設も充実し教育環境は段階的に整備が進んでいます。今後、特に力を入れるのが英語教育です。福生には多くの外国人の方が暮らしており、グローバル化が見られます。現在、タブレットを活用したり、A L T（外国語指導助手）を全小中学校に派遣するなどしています。27年度以降は英語を母国語とする外国人の常駐や、小学校で外国語活動アドバイザーの採用なども検討していきます。

英語教育の指標の一つとして、例えば小学6年生までに英検4級を、中学3年生までに英検3級の取得が考えられます。英語教育に力を入れるのは、子どもたちが自信と誇りを持ち、グローバル化社会で円滑にコミュニケーションが図れるような人として成長していくことを願うからです。



福生市教育委員会
石田周 参事

福生今昔

ふっさっ子の放課後がどのように変わったのか時代を切り取ってみました。昭和40年代と現在で比較してみます。



昭和41年 福生第四小学校の校庭で遊ぶ児童



昭和49年本町の路地で遊ぶ児童



校庭での「ふっさっ子の広場」



教室での「ふっさっ子の広場」

移り行く放課後の遊びの風景

子どもの遊びは時代とともに変わり、現在では外で遊ぶことが少なくなってきているようです。かつては子どもの遊び場といえば、路地や空き地、河川敷などたくさんありました。そこでは子どもたちが遊び方を考え、順番やルールをつくったり、年上の子どもが年下の子どもをいたわったりと、多くの学びや体験をする場となっていました。幼児期の外遊びは生涯にわたる健康の土台を築くとも言われており、外遊びの重要性は言うまでもありません。

残念ながら、今の時代は子どもが安心して外遊びできる場所が減少しているうえ、テレビゲームなどに夢中になり、ほとんど家で過ごす子どもも少なくないようです。こうした状況を少しでも打開するため、「ふっさっ子の広場」を始めました。放課後の遊び場として、学校という安全な場所での

いろいろな遊びをして過ごしてもらおうというものです。広場ごとに昔遊びや工作、英会話教室や軽スポーツ大会などのイベントを行っていて、遊びを教える市民ボランティアの方もいます。ふっさっ子の広場は平成19年度に福生第六小学校で開設されたのを皮切りに、平成21年度までに全校で開設し、現在に至っています。

福生市では市民の協力を得てさまざまな体験や学びの機会を作り、学校と一緒に子どもたちを育んでいくことを目指しています。昔あそび、竹馬、読み聞かせ、楽器演奏、学習サポートなど、「これなら体験させてあげられます」という市民の方を募集しています。また、教えてあげられるものはないけれど「見守りならできます」という方も大歓迎です。

昔、路地や空き地、自然の中で遊んだ、あのワクワクするような体験をふっさっ子の広場で再現してみたいかがでしょうか。

◎ふっさっ子の広場の遊びのジャンル

- まなび／読み聞かせ、学習サポート、絵画、自然・科学など
- あそび／昔あそび、竹馬、紙芝居、将棋など
- スポーツ指導／スポーツ全般
- 文化／楽器演奏、手芸など
- 見守り／見守りサポート

◎文部科学省「放課後子ども教室推進表彰」受賞



平成21年11月、福生第六小学校の「六小ふっさっ子の広場」が、文部科学省の「放課後子ども教室推進表彰」を受賞しました。全国の放課後子ども教室8,719か所中、都内では7教室（全国では71教室）が選ばれ、西多摩地域では初受賞となりました。

武道を通して、体も心も丈夫に



福生の達人

子育てインタビュー

空手道場・葉隠塾 塾長

成嶋 弘毅さん



福生市内の日本空手道・葉隠塾 塾長。アニメ制作会社・竜の子プロダクション元社長。著書の「武士道」子育ては、武士道、葉隠を実践する成嶋さんが、わが子や弟子、社員に対して実践した内容をもとに、子育てに活かしてほしいと願って出版。



心も丈夫にする武道

私は、父が6歳の時に亡くなったこともあり、母には、子どもの頃から、日本の伝統的な躰をもつて育てられました。食事のマナーや挨拶、特に言葉遣いについては、厳しく躰けられました。その時の体験が、今日の私の基本にあり、武道を指導する中でも生き続けています。道場では、単に空手が強くなれば善しというのではなく、謙虚さを持つ、瞬時に正しい判断をするなど、人として丈夫な心を育んでもらうために、武士道の教えを私なりに解釈して教えています。

心に余裕を持つ

たとえば子どもたちが稽古で相手を選ぶ時、自分より弱い相手を選んだ場合、私はあえて強い相手に変えることがあります。弱い相手を選ぶことは、楽な方向に行くことになり、精神的に

大きな夢を持って、一貫不惑に

強くなりませんし、向上心も育ちません。そうした行動が目についた時、武士道の教えを引用して指導するようにしています。武士道の教えとは、わかりやすく言うと、心のゆとり、余裕を持つということなんです。強い相手と稽古をすることによって、自分に自信が持てるようになり、心に余裕が生まれます。

「一貫不惑」という言葉を道場訓に挙げていますが、これは「一事を貫き通し、迷いなし」という意味です。子ども達が迷いを振り払って、自分の信じる道突き進んでいく人になれるよう願って、7つある道場訓の最初に掲げました。

福生の子どもたちには、大きな夢をもって、一貫不惑に堂々と生きていてほしいと思います。

お産は子育てのスタートライン



お産は子育ての出発点

出産や育児に対して、さまざまな夢や希望を抱いている女性は多いでしょう。初めて出産を迎える方は、希望とともに不安も相当にお持ちだと思えます。私たちの助産院では、まず初めに、お母さんと納得いくまでお話しをし、信頼関係を築くことを大切にしています。それは、お母さんの気持ちや考えを尊重したいからです。長いお付き合いになりますので、家庭的な雰囲気の中で、安心してお産にのぞめるようにしたいためでもあります。そして、子どもがお腹の中にいる時から子育てはもう始まっているのです。

自分がありがとう、子どもにもありがとう

私は、赤ちゃんにもお母さんにも幸せなお産になるといいなと思って今日までやってきました。これまでに3,000人以上のお産に立ち会いま

森田助産院 院長

森田 玲子さん



1965年北海道大学医学部付属助産婦学校卒業。自衛隊札幌病院、自衛隊中央病院勤務を経て、1968年森田助産院・森田乳児室を先代より継承。60年以上続く森田助産院の院長で、とりあげた赤ちゃんは3,000人以上。現在は娘の今村理恵さんが3代目として院長を支えています。森田助産院ではスタッフ全員が協力し、その人らしい出産ができるようお手伝いをしています。産後も何かと相談のついで、地域で頼りにされている開業助産師さんです。

「がんばったね」と、皆さんの優しい言葉を赤ちゃんとお母さんにかけてきました。そして何よりも、お母さんには、「自分がありがとう、赤ちゃんにありがとう」と言ってもらいたいです。

楽しみながら、体で子育てしましょう

お産は子育ての第一歩です。陣痛で夜中、一睡もできないこともあります。が、それは、これから始まる育児の予行練習のようなものです。母親になるという自覚を持ち、自分が産み育てるという覚悟を持ってほしいという赤ちゃんからのメッセージだと思ってください。とにかく、楽しむことが大切です。自分も楽しみながら、頭ではなく体で子育てをしてほしいと思います。そのためには、お父さんやご家族の協力と理解が必要です。私たちもお手伝いしたいと思います。



福生市からのお知らせ & 耳より情報

4月1日 西多摩地域で初めて **病児保育室** 開設！

子育てをしている保護者の方からは、子どもが風邪やインフルエンザなど、病気の時に利用できる医療機関による病児保育室開設の要望が非常に多く、これまで実現に向けて取り組んできましたが、事業者の確保、開設場所、設備などの課題が多く、長年実現できませんでした。

このたび、福生市医師会のご協力により、4月1日（水）より病児保育室の開設します。病後児保育室と合わせ、保育の充実を図り、保護者の皆さんの要望にお応えします。



市民の皆さんの子育てと就労の両立を応援するため、下記の内容で運営します。

開設日

平成 27 年 4 月 1 日（水）

利用できる日時

月～金曜日午前 8 時～午後 6 時

※祝日、8 月のお盆休み期間、年末年始を除く。連続利用は 5 日まで。

場 所

病児保育室あんず（3 月 16 日開院予定のしみず小児科・内科クリニックに併設）

住所：福生市牛浜 8 番地 電話：042-513-4158 ※電話の受付は、3 月 31 日（火）から行います。

問合せ 詳細については担当課までお問合せ下さい。

子ども育成課保育係 電話：042-551-1780

「まちの魅力発信」ワーキングチームレポート 個性豊かな福生は、やっぱり魅力がいっぱい！

「生活便利度」

市内には 3 線、5 つの駅があり、また体育館や図書館、公民館、集会室などの公共施設が充実している福生は、生活するのに便利なまちです。

通勤外出アクセスと
人生かがやき施設が充実！



自然の豊富さも福生の
魅力のひとつ！

「自然満足度」

多摩川の自然や玉川上水の景観、そして桜まわりに代表されるお花見スポットも、福生の魅力のひとつです。

「生活安心度」

市道の道路照明灯が LED 化され、夜間にはまちを明るく照らしています。また、通学路の見守り等について検討を進めています。

福生は、安全・
安心を目指すまち！

和と洋の文化接触度と
国際色あるまち並み
は、福生の個性！

福生発祥や多国籍の
グルメが多いのも、
福生ならではの！



「個性・魅力度」

多国籍料理のレストランや福生発祥の個性的な店も、福生ならではの魅力です。



「多文化度」

和と洋の文化への接触度の高さや、国際色豊かで個性的なまつりやイベントは、福生の魅力です。

「まちの魅力発信」ワーキングチーム

26 年度、市役所職員十数名に大学生も加わり、福生の魅力を発掘し発信する活動や検討を行ってきました。上記の「福生の魅力」は、あらためて福生の住みよさ度を再評価するため、ユニークな指標を使って市の良い所として発信できるところを考察したものです。